

8 多文化共生のまち

鶴見区は、市内2番目に外国人人口が多く、市全体に比べ南米出身者の構成比が大きいことや、沖縄にルーツを持つ人々が多いことが特徴であり、多様な文化が息づいています。

● 沖縄と鶴見

沖縄の県外・海外への移住は、明治30年代にさかのぼります。当時沖縄では、土地整理事業により土地を失った人々が県外・海外へ移住するようになりました。さらに大正9年以降、主要作物であった砂糖の価格暴落で経済が困窮を極め、移住に拍車がかかりました。ちょうど同じ頃、鶴見では埋立事業などにより労働力の需要が高まり、多くの沖縄出身の労働者が定住するようになりました。戦前戦後にかけても、同郷出身を頼った沖縄の人々が鶴見に移り住みました。



鶴見沖縄県人同志会（昭和2年設立）
（写真提供：横浜・鶴見沖縄県人会）

● 沖縄の伝統芸能

沖縄では、古くから集落毎に村芝居と称して豊年踊りが催されていました。鶴見の沖縄コミュニティでも、催し事の際には、沖縄伝統の演劇や歌劇、舞踊が披露されていましたが、戦争で途絶えてしまいました。

終戦後、横浜・鶴見沖縄県人会のメンバーなどの奮闘により、沖縄芸能の公演やイベントが積極的に行われるようになりました。



鶴見沖縄県人会公演（昭和31年）
組踊り『伏山敵討』より。
鶴見沖縄県人会会員が出演。



第一回おきつる芸能祭（平成26年）
沖縄芸能の継承と普及を目的とし、民謡や琉舞を披露。

（写真提供：横浜・鶴見沖縄県人会）

● 南米と鶴見

鶴見区に南米出身者が多く移住するようになったきっかけは、平成2年の入国管理法改正です。バブル経済期の製造業などの人手不足を背景に、日系人が就労可能となる在留資格が創設され、南米を中心とした国々から多くの日系人が日本に移住しました。かつて沖縄から南米に移住した人々やその子孫である日系人の中には、沖縄出身者を頼って鶴見区に移住した人々が多くいました。こうしたことから鶴見区は南米にルーツを持つ人々が多く住むようになりました。

● 多文化共生の歩み

海外からの移住者が急増したことを受け、地域の人々による日本語教室の運営や相談対応等の支援が行われるようになりました。近年は文化交流のイベント等も開催されるようになり、相互理解に基づく多文化共生の取組が進められています。



ブラジルの伝統的な祭り「フェスタジュニーナ（6月の祭）」（会場：潮田小学校／平成16年）



鶴見区在住の外国人を対象としたNPO法人ABCジャパン主催の日本語教室（平成22年）

（写真提供：安富祖美智江様）